



慶應義塾大学ビジネス・スクール

経営手法の歴史的発展と組織への導入に関するノート

企業にとって顧客、競争会社といった事業環境は所与のものであるが、企業自身がその事業の成長を望む場合、環境に対して働きかけると同時に環境に整合するように自身の価値観・スタイルを変えていかなければならない。それら企業の革新（または改革）のためには経営戦略の変革、企業の組織や人事制度などの変革、また企業理念そのものの変革など様々なレベルの「企業変革」が存在するが、それら企業変革のための方法論として「経営手法」が存在する。

90年代初頭に一大ブームを巻き起こした「リエンジニアリング」、近年脚光を浴びている「ベンチマーキング」、また過去を遡れば「リストラクチャリング」や「ポートフォリオ・マネジメント」など、経営戦略の分野にはその時代において新しい経営の概念を提示してきた様々な経営手法がある。それらは経営効率の向上、環境変化への適応、また収益の増大といった種々の企業目標を達成するためのメソッドとして生まれ、伝播していった。

1950年代	1960年代	1970年代	1980年代
事務の電算化 Computerization	T-グループ T-Groups	ゼロ・ベース予算 Zero-based Budgeting	セオリーZ Theory Z
Y理論 Theory Y	中央集権と分権 Centralization vs Decentralization	経験曲線 Experience Curve	企業内ベンチャー Intrapreneuring
計数管理 Quantitative Management	マトリックス経営 Matrix Management	ポートフォリオ ・マネジメント Portfolio Management	減量経営 Demassing
多角化経営 Diversification	複合化企業 Conglomeration		リストラ Restructuring
目標管理 Management by Objectives	マネジリアル・グリッド Managerial Grid		企業文化 Corporate Culture
			1分間経営 One-minute Management
			現場重視の経営 Management by Walking Around

SOURCE: Business Week Jan.20,1986

図1 ビジネス界でもはやされた概念の年代別推移

図1はそう云った経営手法を年代別に列挙したものであるが、存在した手法の総数から考えれば一部を抜粋したものではあるものの、各年代毎に様々な経営手法が存在していたことがわ

このノートは慶應義塾大学大学院経営管理研究科教授高木晴夫の指導によりトーマツコンサルティング株式会社の中川國敏が1996年4月に作成した。
著作権©慶應義塾大学1996.